

からしだね

2021年6月号
(571号)

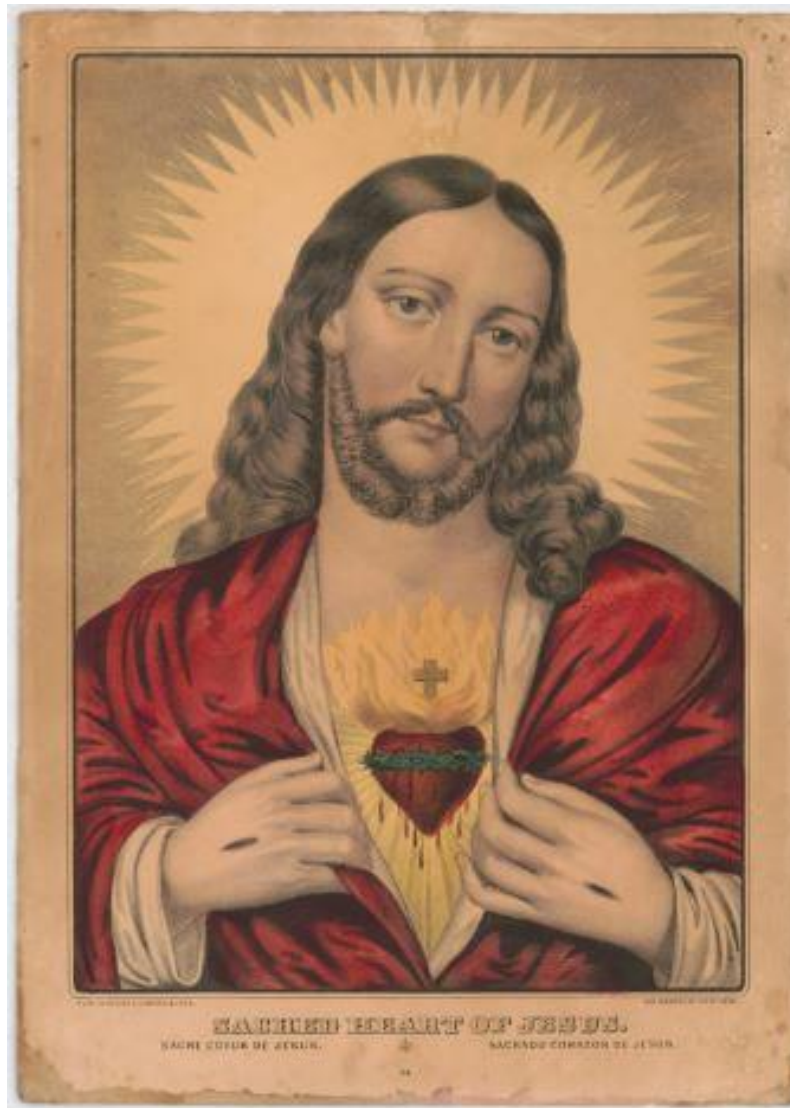
キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

主イエス・キリストからの励まし 稲葉善章 CP

財務こぼれ話 第二回

6月のガラスケースのみことば

6月の池田教会の行事予定について

みことばの解説

ノノイ・プラザ神父

今月の表紙の絵について

昨年から続くコロナ禍、私たちの生活、命を守る為に私たちの生活全般は、様々な制約を余儀なくされています。人と人との間に距離を設けるソーシャルディスタンス、不要不急の外出制限、ミサの非公開等々。私たちは、生活、命を守る為に踏ん張っています。疲れを感じながらも耐えています。今日イエス様は、苦難の中にあり、それでも耐えて歩む私たちを励ましてくださっています。

“あなたがたには、世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。” ヨハネ 16・33

イエス様が、私たちに語られたこのことばは、苦難の中を歩む私たちにとって、まことの励ましです。イエス様の語られることばには、力があります。なぜならば、イエス様ご自身が苦難の中にあつた時、勇気を出して歩まれた方だからです。御受難を歩まれた時、イエス様は、十字架を担ぎ、その十字架の重みに耐えられずに何度も倒れました。しかし、その都度その都度イエス様は立ち上がり、また十字架を担ぎ、歩まれました。歩むことをやめませんでした。どうして、イエス様が歩み続けられたのか、それは、天の父である神様が、イエス様にこう言われたからです。

“勇気を出しなさい。”

イエス様は、天の父である神様に励まされたので、御受難を歩むことが出来ました。

今、現代の御受難を歩く私たちに主イエス・キリストは、私たちにこう言われます。

“勇気を出しなさい。”

コロナ禍によって、忍耐を続けている私たち、忍耐を持続する力を失いつつある私たちは、イエス様が、天の父である神様に勇気づけられたように、今、私たちに勇気づけてくださいます。私たちは、その時同時に問われます。イエス様のことばを信じるのか、信じないのか。

イエス様は、天の父である神様から励まされた時、イエス様は、その励ましを受け止めました。信じました。だからこそ、また立ちがり、十字架を担ぎ歩み出せました。

私たちも、イエス様の励ましを受け止めて、そしてイエス様の問いかけに答えて信じる時、今日私たちにイエス様が、与えてくださったことばは、私たちにとって、まことの励ましとなります。

私たちに励ましてくださる主イエス・キリストに賛美と感謝をお捧げして、現代の御受難、コロナ禍をイエス様の励ましによって私たちが、歩めますように。

私たちの主イエス・キリストによって。 アーメン。

6月のガラスケースのみことば
生き方を変えるのは、今です。
神は倦むことなく、手を伸ばしておられます
フランシスコ教皇
(福音宣教委員会撰)

みことばの解説

ノノイ・プラザ神父

神の愛は偉大です。私たちは誰でも、自分自身や周りの人々の人生が愛の力によって大きく変化したことを間近に見た経験があることでしょう。人生における真実の変化は愛の力によって起こるものなのです。

キリスト信者にとって、偉大な力を持った愛のお手本は、神の愛そのものです。主は永遠の愛で私たちを愛してくださっています。そして、私たちの心を暖かく照らしてください。私たちが主の愛の暖かさを感じて自分自身の心を開くとき、私たちは生まれ変わることができるのです。

もちろん、自分の生き方や物事の見方を変えることは容易なことではありません。私たちは今まで慣れ親しんだやり方を続ける傾向があります。しかし悲しいことに、この慣れ親しんだやり方というのは、時折自己中心的になる傾向があります。それは自分のことだけしか考えない生き方です。

私たちが今経験しているパンデミックの状況を考えると、どこに神様がいらっしゃるのかと尋ねたくなるでしょう。でも、私たちは様々な場面で主を見つけることができます。ただし、自分を不幸の主人公であると考えたり、自己中心的になっている時には主を見ることはできません。そうではなく、このパンデミックによって引き起こされた災難に対する人類の力を合わせた努力や、たくさんの祈りを通じて困難に直面している人たちに寄り添ったり、財政的な支援をする人たちの中に主を見いだすことができるのです。

もっと言えば、私たちは皆、信仰が定められた教義と教えを信じることだけではないことを知る必要があります。むしろ、信仰とは私たちが信じていることを実行することです。言い換えれば、主の教えに従うとは、宗教心を見せびらかすことではなく、日常生活における忠実さ、他人への関心、そして祈ることなのです。そこにこそ成熟した精神性の本物の姿を見ることができます。そしてこれらのことを実行することによって、神が私たちに差し出してくださった「伸ばされた腕」を感じることもできるのです。

だから今、あなたの人生を見て、何を変える必要があるかを考えてください。神とのより健全な関係と共同体のために、そして何よりあなたの未来のために、今あなたの生活を変える決心をしましょう。簡単なことはありませんが、神がいつもそばにいて、神を本当に信じてください。神はあなたのことをいつも見ておられます。そして、主はいつも手を差し伸べておられます。

次のページに続く

今月より、ノノイ神父様に『みことばの解説』を加えていただくことになりました。また、『みことばと解説』の朗読を教会ホームページで聞けるようにしました。是非、ご視聴いただき、福音宣教の観点からご家族やご友人に紹介いただければ幸いです。

教会ホームページはこちらから ⇒



福音宣教委員会

財務こぼれ話 第二回

財務委員会

今回は、池田教会の収入のお話をしたいと思います。次のうち正解はどれでしょう？

- ①池田教会の収入には大阪大司教区からの分配金がある。
- ②池田教会の収入には御受難修道会からの支援金がある。
- ③池田教会の収入には他からの支援等はない。

正解は③です。

つまり池田教会の収入はすべて、信徒の皆様からの毎月の献金や堂内献金、復活祭などの大祝日献金、バザーでの収入や、チャリティコンサートなどの献金、また、結婚式や葬儀の際の献金などで成り立っていて、他からの援助金などはありません。昨年の聖堂の耐震改修工事の際もどこからも援助は頂いていません。

ただし、池田教会の主任司祭としての神父様のお給料は大阪大司教区から御受難修道会宛に支払われています。また、御受難修道会はその中から神父様達の食費を司祭館にお渡しくださっていますが、いずれも池田教会の収入には含まれていません。

つまり、池田教会の収入は、すべて信徒の皆様からの献金やバザーなどの活動（皆様の働き）によって成り立っているということをご理解頂ければと思います。

そのような中で、聖堂の耐震診断から耐震工事そして献堂以来50年ぶりの聖堂大改修を含めて、これまでの積立をほぼ使ってしまうような費用がかかった昨年度の工事を資金の借入もなく終えて、今後控える様々な補修に必要な蓄えを一応残すことができたことは、池田教会の財務の立場としてとてもありがたく思っております。耐震工事そのものにかかった費用は皆様からの特別献金と増額してくださった設備費の直近2年度分でほぼ賄えた計算になります。

改めて、皆様の多大なご協力に心から感謝申し上げます。

黙想会のお知らせ 宝塚黙想の家

■ 日帰り黙想会 10:00~15:30

6月24日(木)

指導: 染野 治雄 神父

6月25日(金)

指導: 山内 十束 神父



■ 一泊黙想会

6月26日(土) 17:00~27日(日) 15:30

指導: 稲葉 善章 神父

■ 祈りを深めるための聖書の基本

第1・3 水曜日 10:00 ~ 12:00

指導: 山内 十束 神父

■ カトリック教会のカテキズム

第2・4 水曜日 10:00 ~ 12:00

指導: 染野 治雄 神父

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは
「宝塚黙想の家」まで。☎0797 (84) 3111

今月の表紙の絵について

6月は「イエスのみ心の月」です。表紙のイエス様は19世紀前半にアメリカで描かれたリトグラフで、米国議会図書館に収蔵されています。

6月の池田教会の 行事予定について

大阪府と兵庫県に対して4月下旬から発令されていた緊急事態宣言が20日まで延長されて、池田教会の公開ミサは中止され、教会で予定されていた各種集会は概ね延期または中止されます。

21日以降の行事予定が実施の見通しは、6月の聖堂やwebサイト (<http://catholic-ikedasakura.ne.jp/church/index.htm>)にある『6月のカレンダー』でご確認ください。

編集後記

短期間、入院する羽目になった。夜昼なく眠り続けていたが、目が覚めると痛みが襲ってくる。ふとコロナ患者に思いが及んだ。高熱が何日も続き、呼吸困難に陥って喘ぎ続け、回復できるかどうかもわからない状態。さぞや苦しく、つらいことだろう。そんな人たちが世界で今、何十万人もいるのだ。ごミサでは「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」を唱えていたが、私はどれほど心を込めて祈っていたらどうか。さまざまな国で、政治的混乱により理不尽な死を遂げる人も数えきれないほどいる。共感力を養わなければならない。

ソフィー